

かつうら観光ぶらっとフォーム事業 【評価 C】

担当課：観光商工課

実績額35,551,380円（うち交付金17,775,690円）

1. 事業の目的・概要

平成28年度に地方創生加速化交付金を活用し、「かつうら観光まちづくりコンソーシアム」を設立し、観光地再生戦略策定・マーケティングを通じて、観光地としての現状把握と課題の認識を行ったところである。

平成29年度は、地方創生推進交付金を活用して、継続的に選ばれる観光地を目指し、具体的な活動をスタートした。

2. 事業の内容

○かつうら観光まちづくり運営委託料 20,388,170円(勝浦市観光協会に委託)

■観光情報のワンストップサービス

KAPPYビジターセンターの運営を委託することにより、観光情報や宿泊案内をワンストップで提供することができた。

■ポータルサイト管理/観光情報発信

勝浦市観光協会を見やすく、解りやすく、インバウンド対応を意識した標記等に努めた。併せてインスタグラムなどの活用により多くの方の人に勝浦の観光情報を発信した。

■観光地としてのイメージ構築・着地型観光商品の紹介

KAPPYビジターセンターの運営を委託することにより、レンタサイクルなどの体験型観光をお客様に提供することができた。

■地元商品の宣伝・販売

平成28年度に開発したヒジキを使ったスイーツ（ウミーツ）の販売をKAPPYビジターセンター等で販売し新たな土産品のPRを行うことができた。

○外部から専門人材雇用 9,198,568円

組織を運営・経営する専門人材を雇用し観光地再生戦略の実行・日本版DMO構築に向けた調査検討を行った。

○広域連携推進事業 1,054,220円

市周辺の自治体の観光スポットとして、勝浦市、御宿町、鴨川市がRESASでも宿泊施設が多く目的地として選ばれており、新たな観光ルート発掘として観光事業関係者と夷隅郡内の観光施設を巡るツアーを実施し、近隣観光施設の魅力の発掘と相互協力に向けた意見交換を行った。

乗り捨てレンタサイクル推進事業について御宿町・鴨川市と海岸線が綺麗な部分を活用したレンタサイクルについての検討をした。それぞれに至る道路状況ではお客様の安全確保に不安が生じたことに鑑み実現には至っていないが引き続き実現に向けた協議を続ける。

大多喜町観光協会といすみ鉄道や道中の観光施設などを巻き込んだレンタサイクル乗り捨て事業を行ない、平成30年度も引き続き実施する。

○空き店舗活用事業 1,918,822円

空き店舗を活用した、市内観光関連団体のパイロット店舗について検討した。

勝浦ビッグひな祭り期間中に来場したお客様への案内等のおもてなしとお土産等の販売を行った。

○着地型観光商品・お土産品開発事業 2,991,600円

■着地型開発商品開発

まち歩きサイト「デカケルJP」に勝浦紹介ページを開設。

まち歩きサイトの勝浦ページ作成に向け講座を開催、市民ライターの養成を行った。

■土産品の開発

ひじきソースに続く第2弾として料理研究家のプロデュースによる規格外などの未利用魚としてゴマサバを素材とした「サバクッキー」と「坦々サバ味噌煮」を開発

■着地型観光商品や土産品のモニタリング

今年度開発した「サバクッキー」と「坦々サバ味噌煮」について都内飲食店で試食会を実施アンケートの実施を行い商品化に向けた検証を行った。

大手観光業者等を対象に勝浦市内の観光施設等を体験してもらい、観光商品の造成にむけた啓蒙を行なった。参加企業6社 内年度中に商品開発2社、勝浦紹介1社の実績があった。

3. 本事業における重要業績評価指標（KPI）

	指標名	H29 目標値 (H29 実績値)	H31目標値
KPI-1	交流人口(観光入込客数)	1,140千人 (1,083千人)	1,300千人
KPI-2	観光関連雇用創出者数(延べ、飲食・宿泊業含む)	30人 (10人)	150人
KPI-3	住民主導型まちづくり活動の実績(延べ)	3団体 (3団体)	10団体
KPI-4	市内宿泊客数	299千人 (318千人)	310千人

目標の達成等を阻害する要因及び状況の変化・目標達成に必要なこと(要因・課題)

【交流人口及び市内宿泊客数が減少している要因と課題】

観光入込客数については、海水浴場入込客が全体の30%を占めており、平成29年度は7月、8月の台風5号の停滞や曇りや雨などが続く悪天候により、前年と比較して海水浴場の入込客は111,550人の減少及び朝市の入込客は約14,500人の減少が見込まれることが大きな原因となっており、一時期の天候不順によらない、年間を通じて来客が期待できる観光商品が不足していることが課題である。

【観光関連雇用創出者数が伸びなかった要因と課題】

観光関連雇用創出者数については、商工会などと連携し起業・創業セミナーを行っており、全体としての起業・創業者を希望するものは目標数より多くなっているが起業・創業にまで至っていない状況であることや、起業・創業者に対するニーズに対応できていないことが課題である。

要因・課題を踏まえた具体的な取組(改善策・取組方針)

【交流人口及び市内宿泊客数の減少に対する改善策】

既に計画している体験型・四季型観光を主体とする着地型観光商品の開発の強化推進、近隣自治体との連携による広域的周遊型観光の強化推進、及び、宿泊者のニーズに応える観光情報の発信に努める。

朝市の減少については、コンソーシアムの一つである朝市運営委員会の組織改革を平成30年度に計画しており、組織体制の強化を図り、400年続く朝市ブランド強化魅力の発信に繋げる。

【観光関連雇用創出者数を増加させるための改善策】

観光に係る事業について創業者数の増加に繋がるよう継続して講演会の開催や人材育成を行うとともに、起業・創業時の資金問題を解決するため、創業に係る設備融資利子補給制度(市単)を新設し、創業者数の増加に繋げる。

企業立地推進事業 【評価 A】

担当課：企画課

実績額 3,609,360円（うち交付金1,804,680円）

1. 事業の目的・概要

人口減少、少子高齢化が進む本市において、雇用の創出、働く場の創出は、重要な課題である。一方、少子化に伴う小中学校の統合により生じた空き校舎等を、新たな地域活性化の拠点として有効に活用することが求められている。

そこで、千葉県と県内7市町村との広域連携事業である【新しい「人の流れ」から「しごと」まで地域一体で創造する千葉創生事業】として、千葉県と連携しながら、本市ならではの豊富な地域資源を活用し、空き公共施設等を受け皿としたIT・ベンチャー企業等を対象に、サテライトオフィス等の誘致を中心に多様な働く場の創出に取り組んだ。

2. 事業の内容

○企業誘致促進ツアー・セミナー開催 2,916,000円

多様な働き方が進む中、地方で働くことに関心のある企業や個人を対象にツアーやセミナーを開催した。

【ツアー】

東京駅からの日帰りツアーを2度開催し、勝浦市へのアクセス性や公共施設、自然環境等の視察を実施。併せて住環境を紹介することにより「しごと」と「住む」イメージの醸成を図った。

【セミナー】

東京駅近くのコワーキングスペースを会場に本市の魅力やアクセス性をPRするとともに、地方で働くことについてワークショップ形式で参加者を交えた意見交換を行った。

○企業誘致PR動画制作 491,400円

企業訪問時やイベント開催時に、本市の魅力、価値、豊富な地域資源を視覚的かつ効果的にPRし、本市の知名度や来訪意欲を向上させ、企業誘致につなげることを目的に制作した。3分動画と1分動画を各1本制作。

○企業誘致パンフレット作成 201,960円

企業訪問時やイベント開催時に、本市の魅力、価値、豊富な地域資源をPRし、本市の知名度や来訪意欲を向上させ、企業誘致につなげることを目的に作成した。500部作成。

3. 本事業における重要業績評価指標（KPI） 【千葉県が設定したKPI】

	指標名	H29 目標値 (H29 実績値)	H31 目標値
KPI-1	地域しごと支援事業の利用者数	200人	600人
KPI-2	空き公共施設等への進出企業数	6社 (2社:勝浦市実績)	16社
KPI-3	起業家応援イベントの参加者数	2,000人	6,000人

目標の達成等を阻害する要因及び状況の変化・目標達成に必要なこと(要因・課題)

働き方改革やテレワーク導入企業が増える中、多様な働き方を模索する企業は増えている。一方、そうした企業ニーズと地方とのマッチングは進んでおらず、国や県との連携による取組が重要である。

また、マッチングされたとしても縁もゆかりも無い地に企業や個人が進出を決定することは非常に難しい。アクセス性を始めとした地域資源の強みをどのように絡めて企業等に魅力的な地とPRできるかが大きな課題である。また、進出に向けては助成制度などのインセンティブを設けることも検討することが必要である。

要因・課題を踏まえた具体的な取組(改善策・取組方針)

単に働く場としてのイメージだけでなく、観光・食・マリンアクティビティ・住環境等の総合的な組み合わせを具体的に提案・訴求し、「しごと」×「趣味」「あそび」というようにライフスタイルを確立できる魅力的な地として、PRを推進するとともに、ワンストップで対応できるよう体制を強化していく。

また、関係機関との連携を強化し、効果的なPRや視察のあった企業等へのフォローアップを継続していく。

企業誘致ツアーのイメージ

